

大麦栽培暦 「ファイバースノウ」

【栽培のポイント】

- 1 排水対策の徹底
- 2 土づくりの実践と的確な基肥施用
- 3 計画的な播種
- 4 生育に応じた追肥
- 5 赤かび病等の適期防除
- 6 適正な収穫と乾燥調整

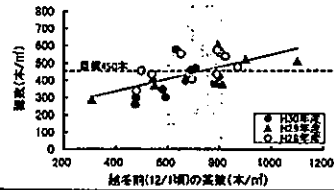
【目標】 高品質・安定収量の確保

- 品質目標
 - 1等比率 90%以上
 - 整粒比率 80%以上
 - 品質ランクA格付け
 - 容積重 690g/ℓ以上
 - 播表率 2.2mm(篩)下に2.0%以下
 - 白度 43以上
 - 精子率 40%以下
- 単収目標 350kg/10a

<収量構成要素>

- ・㎡当穂数 450本 (苗立数150本×1株穂数3本)
- ・1穂収量 0.92g

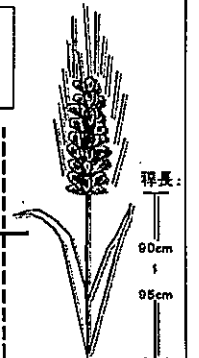
越冬前(12/1頃)の目標茎数 600~800本/㎡



結実日数(平年) 43日

㎡穂数 450本

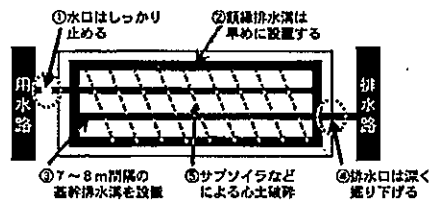
積算温度(平年) 747℃



月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月						
生育	発芽	分けつ期			幼穂形成期	節間伸長期	出穂期	成熟期								
作業	①排水対策	②土壌改良資材等施用	③種子の準備	④播種作業 (基肥施用) 1日で完了する	⑤雑草防除 (除草剤の的確な使用)	⑥年内追肥 (播種1か月後)	⑦排水溝の手直し (臨時実施)	※年内2回目追肥 (茎数不足かつ葉色が淡い場合)	⑧排水溝の手直し (融雪水の排水)	⑨消費後追肥 (消費後直ちに施用)	⑩止葉展開期追肥 (出穂の11日前)	⑪赤かび病防除① (播種時)	⑫赤かび病防除② (1回目から7日後)	⑬収穫	⑭乾燥	⑮調整

① 排水対策

- ・稲刈り後、早急に縦横排水と基幹排水溝を設置する
- ・透水性の悪い場合は、心土破除を行う



② 土壌改良資材等施用

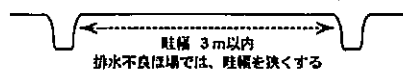
- ・pH6.0~6.5を目標に、石灰質資材を耕起前に施用する

③ 種子の準備

播種期	目標苗立数 (本/㎡)	播種量の目安 (kg/10a)	
		ドリル播	表面散播
9月6中旬	140	6.0	6.5
10月上旬	150	6.5	7.0
10月中旬	200	8.5	9.0

④ 播種作業

- ・ほ場の乾いたときに、耕起・作溝・播種の1連作業を1日で完了する
- ・播種適期は10月上旬、遅くとも10月中旬までに播き終える



- ・ほ場が乾き、条件の良いときに作溝する
- ・溝は耕盤(約20cm)より深く掘る
- ・溝は必ず深く掘り下げた排水口に連結する

⑤ 雑草防除

- ・土壌処理除草剤の効果为了提高のため、砕土率の向上に努める
- ・雑草の種類や発生状況に応じ、効果の高い除草剤を的確に使用する
- ・ほ場内に発生したカラスノエンドウは速やかに除去する

種子消毒の方法

風呂湯消毒法	42℃の風呂湯に10時間浸漬し、自然に温度を下げる
循環式消毒器	45℃の湯温に入れ、2.5時間浸漬する(時間厳守)
薬剤粉衣	ペンレートT水和剤20の乾燥種子重量の0.5%粉衣 種子10kgに50gの薬剤を入れ、水200mlを加用して混和する

⑥ 施肥

- ☆肥効調節型基肥栽培の場合
N 13.5kg/10aを目安に、地力に応じて施用

☆分施の場合

施肥	時期	N施用量(kg/10a)
基肥	播種時	5~6
年内追肥	播種1ヶ月後(11月上旬)	4
消費後追肥	消費直後	3~4
止葉展開期追肥	出穂12日前頃	0~2

ただし、追肥は生育に応じて減肥

⑦ 排水溝の手直し

- ・排水対策は、大麦栽培の“かなめ”
- ・11月下旬の稲刈前、2月下旬の融雪期の他生育期間中に臨時、排水溝の手直しを行う

⑧ 赤かび病防除

- ・赤かび粒の混入限度は0.0%
- ・開花状況を確認し、穂初期(開花始め)とその7日後の2回防除を徹底する
- ・薬剤散布に際しては、風の弱い時間帯を選ぶなど、周辺作物や住宅地への飛散防止に努める

※薬剤の一般的な使い方や注意事項は「平成31年度農作物病害虫・雑草防除指針」を参照する

⑨ 収穫

- ・収穫前のほ場巡回や荷受時の入念な検査による異物の混入を防止する
- ・子実、茎葉が完全に黄化し、子実水分が30%以下になったら収穫開始

⑩ 乾燥

- ・毎時乾燥率1.0%以内の乾燥速度で仕上げ水分13.0%とする

⑪ 調整

- ・グレーダーの篩目は2.3ミリを用い、容積重の高い表に仕上げる